

市原市 ^{おおわだ} 大和田遺跡群

市原市の大和田遺跡群から縄文時代の装身具(そうしんぐ)が出土しました。左上の2点は玦状耳飾り(けつじょうみみかざり)と呼ばれるものです。どちらも破損していますが、本来はアルファベットの「C」のように環状の一端が切れた形をしています。右側(色の白っぽい方)のものがちょうど半分に割れた状態になっています。そのほか、管玉(くだたま)1点、垂飾(すいしょく)2点、小形の玉3点が今のところ確認されています。さまざまな色をしています。どれも滑石という軟らかい石を使っています。大型の垂飾には、紐(ひも)を通してペンダントのように使っていた紐ずれの跡が穴に残っています。

玦状耳飾りとともに出土した土器は、下吉井式と呼ばれる早期終末から前期初頭の土器です。数は少ないですが、全国的にこの土器が使われた時期に各地で一斉に玦状耳飾りが出土するようになります。千葉県ではこの時期の玦状耳飾りは初めての出土で、他の装身具とあわせて貴重な発見となりました。



下吉井式土器

